



ひだまり

第43号

2010年6月

目次

今日日本

书法：陈旧而又新颖的 自我表现



© Nippon Budokan

人物采访

書道の魅力を伝えたい



© TJF

発行 財団法人国際文化フォーラム
編集人 中野佳代子
編集・制作 飯野典子
千葉美由紀
長江春子
森本雄心
翻訳・校正協力 シンプルデザイン
執筆協力 原島陽子

財団法人国際文化フォーラム
(TJF)

〒112-0013
東京都文京区音羽 1-17-14
音羽 YK ビル 3 階
電話：81-3-5981-5226
ファックス：81-3-5981-5227
http://www.tjf.or.jp/
E-mail: hidamari@tjf.or.jp

第二外国語の日本語教師研修を開催します！

前号の『ひだまり』第42号で、中国で初めての中学校向け第二外国語教育用日本語教材『好朋友』（試行版）全5冊シリーズが完成したことをお知らせしました。『好朋友』は国際文化フォーラム (TJF) と大連教育学院が共同で編集制作したものです。2009年5月現在、大連市内の26校が、この教材を使って第二外国語 (二外) としての日本語教育に取り組んでおり、約5,500人の生徒が学んでいます。

TJF は、大連での成果を踏まえ、今年度から東北三省 (遼寧省、吉林省、黒龍江省) の日本語教育実施校およびかつての日本語教育実施校を中心に、二外としての日本語の開設を支援することになりました。その一環として、今夏、『好朋友』を使って二外向けの日本語教師研修 (『好朋友』ワークショップ) を遼寧省基礎教育教學研究研修センターと共催します。遼寧省の大連市以外の地域および黒龍江省では、二外としての日本語を開設する拠点校がすでに決定しており、吉林省でも拠点校の選定や取り組みを始めています。この『好朋友』ワークショップは、それらの拠点校の日本語教師を対象に実施します。



二外としての日本語教育に関心をもっている日本語の先生は、東北三省以外にも大勢いると思います。そのような先生方にも、この『好朋友』ワークショップをはじめ TJF の二外日本語推進事業に関する情報をお伝えしたいと思っています。ご関心がありましたら、erwaipeixun2010@163.com まで、ご連絡ください。お待ちしております。

二外日本語教師研修

(『好朋友』ワークショップ)

■主催：

遼寧省基礎教育教學研究研修センター (辽宁省基础教育教研培训中心)、TJF

■場所：

遼寧省瀋陽市

■期間 (予定)：

2010年8月22日 (日) ~ 23日 (月) 2日間

■参加者 (予定)：

遼寧省大連市、阜新市、丹東市ほかの地域の日本語教師および東北三省を中心とする二外日本語教師、約35名

■講師 (予定)：

日本派遣および大連市在住日本人専門家ほか

■内容：

二外教材『好朋友』の理念、特徴や使い方を説明した上で、参加者に実際に教案を作ってもらい、意見交換をしてもらう予定です。また、すでに『好朋友』を使用して二外の授業を実施している大連市内の日本語の先生方に、その実践や感想などを報告してもらう予定です。

书法：陈旧而又新颖的自我表现

用毛笔蘸墨汁写字的书法，对日本人来说是很熟悉的艺术。据说书法起源于中国，8世纪左右传入日本。后来，日本的书法以独自的方式发展，逐渐在普通民众中间扎下了根。很多人都希望能写一手好字，因此，习字和书法在日本很有人气。

练习书法不仅是提高技艺，也是追求美和立身处世的一种方式。历史悠久的书法在今天又有了新的表现形式，引人关注。

表演式书法——新颖表现

近几年，作为高中书法俱乐部新天地的表演式书法很引人注目。将书写过程作为表演让人们观看的手法以前就在书法家之间经常使用。但是，最近倍受关注的表演式书法是引入了舞蹈的因素、和着J-POP(日本通俗音乐)的节拍一边舞蹈一边在巨大的纸上书写歌词等集体表现手法。表演时使用的毛笔有时重达10公斤，有时还将两、三支这样的毛笔捆在一起使用。因为拿着这么重的笔在巨大的纸上书写需要很大的力气，所以在进行表演式书法的书法俱乐部，经常开展长跑、俯卧撑及仰卧起坐等腹肌、背阔肌运动，以增强体力。与一人单独在纸上写字不同，表演式书法需要大家齐心协力完成作品。这即是表演式书法的魅力所在吧。

10多年前，某高中进行的表演式书法，经媒体报道后受到好评，由此，各地高中相继引入了表演式书法。因为表演式书法具有动感、震撼人心的魄力，经常在校园活动或者社区活动中表演，观众也对这种新颖的书法形式表现出浓厚的兴趣。

表演式书法竞赛

这几年，表演式书法大赛也开始在各地举办。大赛中，不仅是完成后的作品，创作过程也被视为作品的一部分，所以除了书法的技巧，表现力和所传达的信息也成为评分对象。

在爱媛县四国中央市举办的全国高中表演式书法选拔赛，通称“表演式书法甲子园*”。2008年举办了第1届。2009年8月

举办的第2届大赛有5所学校参加。各队的出场队员约在10人左右。比赛的方式是各队在自选的歌曲伴奏中，在4×6米的大纸上书写歌词。各队在服装上也很讲究，有的身着裙裤式和服并束上衣袖带子，有的穿吊带衫或马球衫。

日本电视台的“超近距离”(ZOOM IN SUPER)栏目，从2009年开始播放“书法少女甲子园”全国大赛。在2010年正月举办的第4届大赛中，埼玉县立川口高中夺冠，全体队员同心协力把自己想表达的信息，通过作品表现了出来。(见本期人物采访)

*甲子园

每年举办“全国高中棒球锦标赛”的球场——“甲子园”的名称，成为日本高中生全国大赛的代名词。特别是文化方面的高中生全国大赛被冠于甲子园名称的居多。如：摄影甲子园、漫画甲子园、俳句甲子园等等(有关甲子园的详细内容，请参阅《hidamari》42号刊的“今日日本”)。

迷你专栏：表演式书法甲子园诞生的背景

四国中央市是日本最大的加工纸生产基地，遭受长期经济衰退的影响严重。于是，当地的媛县立三岛高中书法俱乐部的女生们想通过书法重新振兴家乡造纸业，激活地区经济，她们策划了“表演式书法甲子园”，并举办成功。报道这一事迹的纪录片在日本电视台放映后得到很大反响。于是，日本电视台又策划了另一个表演式书法大赛“书法少女甲子园”。与此同时，以三岛高中书法俱乐部事迹为原型的电影《书法少女！我们的甲子园》开拍，并在2010年5月开始上映。



© Shodo-Performance
High School National Championships Committee

*大赛的网页上可以看到表演式书法的录像。

<http://shodo-performance.jp/index.html>



© Shodo-Performance High School National Championships Committee



版面中标有这个图标处表示在“点击日本”的网页上登有相关信息。(更详细的说明、更多图片以及登场人物本人的声音等)

<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/>

用毛笔和墨表现语言神力

书法家武田双云，自诩为“用毛笔和墨表现语言神力”的艺术家。他当众即兴书写巨大的文字、与音乐等其它领域的艺术家进行合作等，这种超越了传统书法家的创作方式，受到人们关注。

武田双云在其著书《走书法之路》（PHP研究所）中这样写道：“在书写的过程中获得了面对自我的时间，每一种摸索出的表现形式，都是自己内心深处感情和想法的再现。”



© Soun Office

在舞台上披露表演式书法的武田双云。

英文汉字

书法家国重友美擅长写汉字和英文的混合书法。她说大学时在笔记本上写的笔记体“truth”看起来像汉字的“真实”，由此产生了这种创意。其它还有“爱”和“LOVE”，



© Kunshige Tomomi

用英文字母 LOVE 构成的“爱”字。

“道”和“ROAD”，“海”和“SEA”的混合作品，这些作品收录在《国重友美的英汉字作品集 御祝》中。

用嘴书写

牧野文幸以口衔笔来书写自己的所思所想。上高2时，牧野由于游泳池事故损伤了颈椎，脖子以下部位瘫痪了。他一边拼命进行理疗，一边在理疗医师的劝说下开始练习用嘴衔笔画画。之后，牧野想重拾自己小学时就很擅长的书法，开始练习书法，2年后取得了书法教师资格。牧野说开始用嘴写字之后才发现，书法不是用手来



© TIF

在纸上当众挥毫的牧野先生。书写的要点是把握文字与空间的合理安排。

写而是以身体为轴心来写。所以，用嘴写字并不像周围人感觉的那么难。对牧野来说，书法和绘画，是联系社会、参与社会的手段，是“生存本身”。

牧野说，书法的魅力在于，思考每个汉字的含意，用自己的书写法来表现字形和书体，这样同一汉字可以有多种多样的形态，也就是说“千变万化、自由自在、没有限制”。

年末评选“今年的汉字”：反映世态的一个字

每年12月，财团法人日本汉字能力检定协会都会面向全国征集代表这一年的一个汉字，投票人数最多的一个汉字将作为“今年的汉字”公布于众。中选的汉字由京都清水寺住持在巨大的纸上挥毫书写，并供奉在寺内。“今年的汉字”被认为是反映该年世态的一个汉字，各大媒体纷纷报道。



© Nihon Kanji Noryoku Kentei Kyokai

清水寺住持书写 2009 年当选的汉字“新”。这是年末的例行活动。

漫画《顿、钩！铃里高中书法俱乐部》

以高中书法俱乐部为舞台的漫画，描绘了归国子弟的男生和运动神经发达的女生加入俱乐部以来，渐渐迷上书法的故事。其中还有书法俱乐部的成员从事表演式书法的场面。成为单行本发行量累计超过150万册的畅销书。2010年被改拍成电视剧在电视上播放。



© Kawai Katsutoshi / SHOGAKUKAN

书名中的“顿、钩”来自于书法基本笔法的“顿挫”、“挑钩”、“撇捺”。

历代“今年的汉字”

1995年	“震”	阪神、淡路大地震的发生年。地铁沙林事件和金融机构的破产增加了社会不安。
1999年	“末”	1990年代的最后一年。包含了对下一年“逐渐繁荣”的期待。
2000年	“金”	悉尼奥运会上，日本女子柔道、女子马拉松夺得金牌。
2007年	“伪”	食品假冒伪劣事件相继发生。防卫省的渎职问题暴露。
2008年	“变”	日本首相更替及美国奥巴马总统的变革、政治经济等方面变化大的一年。
2009年	“新”	日本的政权交替、美国奥巴马总统的就职及政治革新。新型流感的流行。

震

1995

末

1999

金

2000

偽

2007

変

2008

新

2009

在日本，从孩子到大人，用毛笔和墨来书写的习字课或是书法课都是人气很高的兴趣学习。去习字和书法教室学习的理由多半是“想写一手好字”。也有很多人不单单是为了写得好看，还想要写出自己的风格。还有的人是因为发现了书法的乐趣。

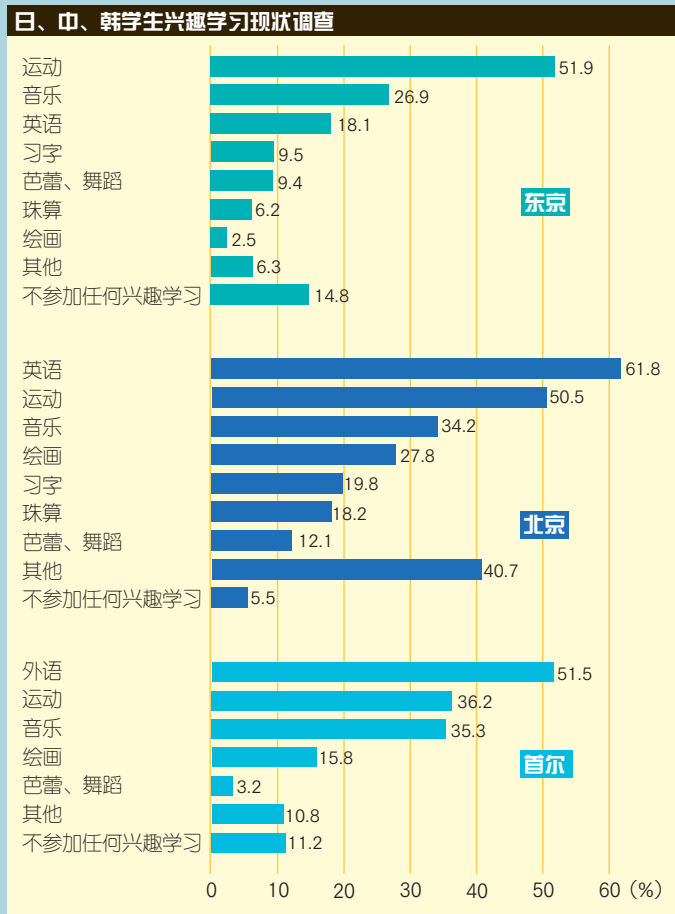
在课堂上学习

在小学和初中的课程中有“书写”课。小学1、2年级时练习用铅笔把字写正确、写好看，3年级以上开始练习毛笔字。大约每周有一次课。在初中也是一个月大约安排1个课时来练习毛笔字。小学和初中书写课的目的是掌握文字的间架结构和书写方法、学会写得端正整齐、掌握礼仪规矩和培养注意力。

而在高中一般是把书法作为艺术的选修科目。学生可以从美术、音乐、书法等科目中进行选择。其目标是提高富于感性和个性的表现力、鉴赏力等。

兴趣学习

习字作为一项兴趣学习在小学生中有很高的人气。排在游泳等体育、音乐、英语之后，名列第四。虽然在初中生和高中生中，随着年龄的增加学习人数逐渐减少，但当他们进入社会之后，去文化中心或通过函授教育重新开始学习书法的人也不在



摘自：《学习基本调查、国际6城市调查报告》Benesse教育研究开发中心（2008）
注：复数回答。

少数。在日本，学习书法的共有390万人左右，其中50岁以上的占70%。（休闲白皮书’08）

新春试笔——“书初”

新年伊始的书法（日文写作“书初”，即新年第一次书写的意思）是日本人很熟悉的活动。很多小学和初中把“书初”作为寒假作业布置给学生。例如，东京都内有一所小学，布置3年级学生写“正月”，4年级学生写“希望之光”，按不同年级指定不同的汉字，让学生在规定的的大纸上书写后交到学校。此外，寒假结束后，很多学校还举办“书初”大会（学生们集中到体育馆等地，在地上铺开纸按规定的课题书写）或举办寒假作业的“书初”展览。不仅是学校，各地的商业街及公共设施也举办“书初”展。

在东京大型室内竞技馆的武道馆，每年正月都举行“书初”大会。2010年的大会上，从预赛决出的3岁到80多岁的约2,800人汇聚一堂，挥毫“书初”。参赛的作品中有330幅作品获得内阁总理大臣奖等奖项。



在武道馆的“书初”大会上，参赛者们展示自己的作品。

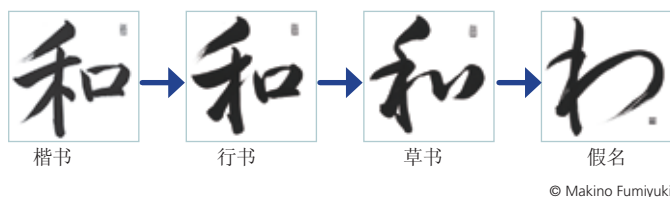
各种各样的大赛

每年举办的国际高中生选拔书展是以国内外的 高中生为对象的大赛。2009年举办的第18届国际高中生选拔书展，有来自日本国内和海外24个国家和地区、共1万5千多幅作品参展。大部分是高中书法俱乐部等团体的作品，也有部分个人的作品。大赛除了设置个人奖以外，还设置了团体奖。此外，还有全日本高中大学书法展、全国高中综合文化节等很多书法大赛。

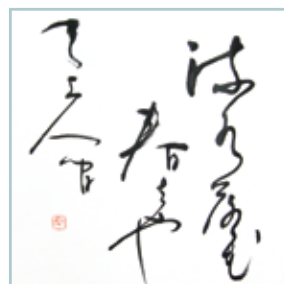
书法甲子园网页：
<http://mainichi.jp/kansai/etc/shodo/2010/thum.html>

书法的字体

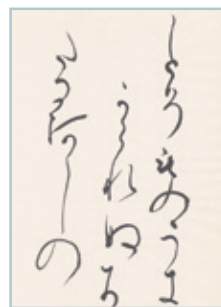
书法的字体据说有篆书、隶书、楷书、行书及草书5种。日本除了这5种字体还有假名和变体假名。从中国传入日本的汉字经过演变，于9世纪左右产生了假名，并逐渐形成了由汉字与假名混合标记的日文文体。这种汉字与假名的混合文体也可以说是日本书法的一大特征。



楷书：字形方正、笔画严谨的字体。
行书：介于楷书和草书之间的字体。
草书：由行书进一步省略、草化的字体。
假名：由草书演变而来的字体。



© 唐海



使用方便的毛笔式签字笔

虽说书法很贴近生活，但日常生活中很少使用毛笔。不过，在一些传统活动的场合，需要用毛笔写字。比如，婚礼或葬礼等庄重场合的接待处签名，以及在给对方的贺礼、香典信封上写签名的情况下。这时最方便的莫过于毛笔式签字笔了。所谓毛笔式签字笔，就是能像毛笔一样写字的签字笔。



© TjF

用毛笔式签字笔在贺礼专用信封上签名

这种笔可以随身携带，并像钢笔一样带有墨水笔芯，使用时不再需要用砚台磨墨。在日本新年发贺卡时，许多人用毛笔或毛笔式签字笔来写贺卡上的地址和姓名，而最近，逐渐被毛笔风格的印刷体取代。

但是，在开学或毕业典礼等正规场合书写节目单、贺词及奖状获奖人名时，不使用毛笔式签字笔，而是使用传统的毛笔。

日本书法的历史

起源于中国的书法，在8世纪传入日本。长期以来，在与日本文化的融合中完成了独自的发展，形成了今天丰富的表现形式及多种流派。

在中国书法的历史长河中，涌现出书圣王羲之等历代名家、巨匠。他们的作品，在日本也被作为范本经常摹写。

【参考资料】

《学习基本调查、国际6城市调查报告》 Benesse 教育研究开发中心（2008）：「学習基本調査・国際6都市調査報告書」 Benesse 教育研究開発センター（2008）
《国重友美英汉字作品集 御祝》（TOKIMEKI 出版社、2005年）：『国重友美英漢字® 作品集 御祝』（TOKIMEKI パブリッシング、2005年）

【关键表达对照】

表演：パフォーマンス
束上衣袖带子：襷掛け
合作：コラボレーション
新型流感：新型インフルエンザ
镇纸：文鎮

长跑：ランニング
吊带衫：キャミソール
兴趣学习：習い事
砚：硯
垫布：下敷き

俯卧撑：うつ伏せ
马球衫：ポロシャツ
奥运会：オリンピック
笔：筆

媒体：マスコミ
纪录片：ドキュメンタリー
奥巴马总统：オバマ大統領
纸：半紙

裙裤式和服：袴
艺术家：アーティスト
变革：チェンジ
墨汁：墨汁

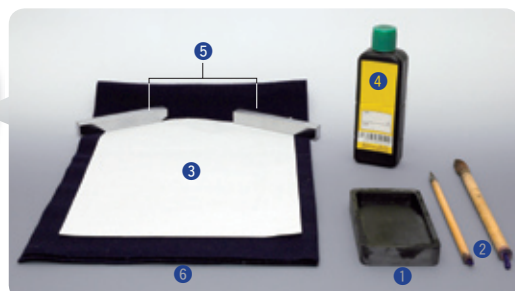
英文汉字：英漢字 ええかんじ®

书法家国重友美的造词。日文「英漢字」的标音为「えいかんじ」，国重借用关西方言中谐音词「ええ感じ」（感觉不错）的读音，将「英漢字」标为「ええかんじ」。

书法用具



用具包



① 砚 ② 筆 ③ 紙 ④ 墨汁 ⑤ 鎮紙 ⑥ 墊布

© TJF

雑学博士

1. ①から⑤の漢字から生まれた仮名は何でしょうか。漢字の形や読みから考えてみましょう。

①也（也）②加（加）③寸（寸）
④仁（仁）⑤世（世）

2. 下に挙げる「筆」がつくことわざは、よく使われます。どんな意味か考えてみましょう。

①弘法にも筆の誤り。 ②弘法筆を選ばず。

*弘法是日本名僧空海的谥号，又称弘法大师。9世纪初，空海赴中国（当时的唐朝）学习密教，回国后开创了真言宗。作为书法家，空海亦颇具盛名。

解答・解説は「ひだまり」ウェブサイトに掲載しています。

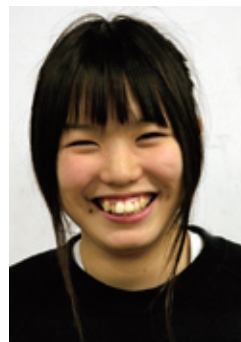
<http://www.tjf.or.jp/hidamari/index.htm>

書道の魅力を伝えたい

あいか……埼玉県立川口高校 3 年 *



あいかさんの声は、「くりっくにっぽん」で聞けます。



書道が大好きで、小学校 3 年生から書道教室に通っています。書道の楽しさや魅力をたくさんの人に伝えていきたいです。

中学生のとき書道教室で「書の甲子園」の作品集を見ました。そこには川口高校書道部の先輩の作品が載っていました。それまで、書道はお手本通りに書くものだと思っていたのですが、その作品は違っていました。圧倒されるほど力強く、迫力がある書体で、今までの書道のイメージが変わりました。それがきっかけでこの先輩のいる書道部に入りたいと思い、川口高校に入学しました。

伝えることの大切さ

書道部に入ってから、私はすごく変わったと思います。中学の頃は、人と違う意見を言うと嫌われてしまう雰囲気があったので、いつも自分の意見を抑えていました。そして高校で書道部に入った頃も、あまり自分の意見を言わないようにしていました。でも先生から「自分の意見を抑えていても人に伝わらないよ」と言われ、勇気を出して自分の思いや考えを主張してみました。そのとき、みんなはきちんと受け止めてくれたんです。それから、私は自分の意見をきちんと伝えられるようになりました。

私たちの書道部では、みんなが協力して一つの作品を作り上げるパフォーマンス書道も行っています。多数で行うため、それぞれの意見が食い違ってしまったりもします。そういうときこそ、自分の意見を言うことがとても大切だと思います。例えば、「書道ガールズ甲子園」のための練習をしていたとき、パフォーマンスを重点的に練習するのか、それとも書道に比重を置く

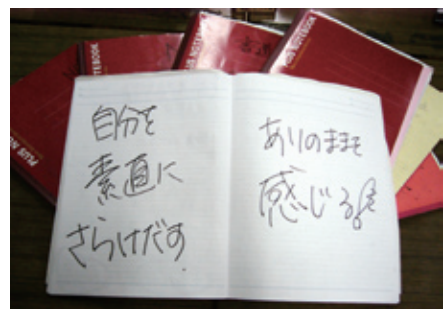
のか、部員二人の意見が割れたことがありました。両者は黙り込み気まずい雰囲気でした。私は二人に「怒っている理由を言わないと伝わらないし、相手の意見も聞かないとわからないよ」と伝えました。そのことで、お互いが気持ちを伝え合うことができ、解決できました。このような経験から、自分の意見はきちんと相手に伝えることで、人は理解し合えるということを学びました。



パフォーマンス書道の筆。墨を吸うと 1 本約 10 キロ。これを 2 本束ねて使うことも。墨は一つの作品を書くのに 3 リットルは使います。

苦しみを乗り越えて

私は、日々の練習で気がついたことや先生のことば、ひとつひとつをすべて大事にしています。そして、それらを次の練習に生かすために毎日ノートに記録しています。もう 7 冊になりました。



そのなかでも 3 年生の夏休みに書いた「自分を素直にさらけだす。ありのままを感じる！」ということばには忘れられない思い出があります。

そのころ私は、パフォーマンス書道、展覧会や大会に出品する作品が、思うように書けず、教わったことをうまく表現できなくなっていました。力を入れようとすればするほど空回りして、うまくいっている部員をうらやましく思ったり、わからないこと

川口高校書道部

練習は月曜日～金曜日の午前 5 時～8 時半、午後 4 時～8 時頃。大きな大会の前は土日にも練習します。主にパフォーマンス書道の動きを練習したり、大会に提出する作品を作ったりします。その後は全員で反省会をして練習を振り返ります。先生からじっくり筆使いを習うこともあります。先生は毎朝スープを作ってくれるので、それも楽しみのひとつです。

活動：

★全国規模の展覧会へ年間 30 大会出品

★毎年末に校外展「川高書展」を開催

★パフォーマンス書道（日本テレビ「ズームイン !! SUPER」主催「書道ガールズ甲子園」三回連続優勝）

をわからないと素直に言えなかったりして、苦しんでいました。心が荒れて、暗くなり、いらいらして人に八つ当たりをしていました。

そんなとき、先生から「うまくできないという事実にとらわれず、なぜできないかを分析するといひよ」と言われました。そこで、私は、「思うように書けなくて苦しい」と思うのではなく「どうしたら思った通りに書けるようになるか」「うまく書けない理由はなんだろう」と考えるようにしてみました。すると、筆を持つ力や動かし方を工夫すればいいんだと気がつくことができました。それからは思ったような文字が書けるようになりました。今思うと、自分で自分を苦しめていたんですね。このような経験から、何か苦しいことに直面しても、できないことを素直に認めて、考え方をえてみることで解決できるということに気がつきました。苦しかったです、大きな気づきを得ることができました。失敗は成功のもとですね。

夢に向かって

母は、「あいかは、もし書道部に入っていなかったら、ひきこもりになっていたかもしれないね」と言います。私もそう思います。人と交流することが苦手だったので、書道部での仲間や先生との出会い、パフォーマンス書道がなければ、学校に行っていなかったかもしれません。私にとって、書道とは生活の一部、というよりも人生そのものです。将来もずっと書道に関わっていきたいと思っています。

私の夢は、筆を作る職人になることです。職人になるためには、勉強するお金が必要なので、まずは高校卒業後に書道用品の会社へ就職することにしました。そこで社会人として経験を積み、夢を叶えるためにお金を貯めたいです。今まで、さまざまな種類の筆を使ってきて、筆の材料によって書いたときの感触が違うことに興味をもちました。いろいろと筆について調べているうちに、おもしろくなってきて、いつか自分で作ってみたいと思うようになりました。

この3年間、ただ書道の技術を磨いてきただけではありません。礼儀作法や精神的な強さも身につけました。これらのことは、卒業して社会に出ても役に立つと思っています。これから、失敗をバネにして次へと生かして進んでいきたいです。

書道の魅力

筆で書いた文字は、墨の量、力、力の入れ方などで、同じ文字でもまったく違って見えます。それから、書いた人の癖、性格などが表れるので、書いた人の人となりが見た人にも伝わります。これが書道の魅力ですね。

そして特にパフォーマンス書道は、書いている人だけではなく、見ている人も楽しめるのが魅力です。私がパフォーマンス書道を始めたのは、書道部に入ってからです。初めは、あんなに大きな紙に書くことにとても驚きました。大きい筆を持ったときは緊張しました。でも今では、音楽に合わせて動きながら書くことが楽しくて仕方ありません。そして、私たちが楽しんでやっていると、私たちのパフォーマンスを見ている人も楽しそうにしてくれていて、気持ちが伝わっているんだなと実感します。書く人と見る人の気持ちがつながることは、とても嬉しいですね。

*この記事は2010年2月に行ったインタビューをもとにまとめました。学年はインタビュー当時のものです。



川口高校書道部の作品「道」



この作品のテキストは「くりっくにっぼん」で見られます。

わたしの好きなもの

好きな文字

「進」。私たち書道部の仲間はこれから、それぞれ違う道へ進むけれど、ここで学んだことを大事にすれば、まっすぐに「進」んでいける、と思うからです。

好きなことば

「あきらめない」今の自分があるのは、つらいことがあっても書道をあきらめずにきたからです。

好きな場所

書道部の部室と、自分の部屋。心が落ち着くから。

趣味

書道と、書道に関する本を読むこと。榊莫山が墨について書いた本が特に好きです。



書道部顧問の三宅先生からあいかさんへのメッセージ

あいかはこの3年間、書道パフォーマンスを通じて、人と支え合うことを学んだと思います。ほかの人から支えられていること、そして自分もほかの人を支えていることを実感したのではないのでしょうか。そのようななかで、あいかは、人を思いやり、気づかせる人に成長しました。同時に、自分と向き合い、少々のことではめげない強さも身につけました。

あいかには、他人の気持ちがわかる大人になってほしいです。そして、自分の気持ちを素直に表現して、いつまでも書と人を愛する人であってほしいです。

让更多的人了解书法的魅力



爱华

爱华 埼玉县立川口高中3年级

我很喜欢书法，小学三年级的时候就开始去书法教室学习。我想把书法的乐趣和魅力传达给更多的人。

上初中时，在书法教室的《书法甲子园》作品集中看到川口高中书法俱乐部前辈的作品。在那之前，我一直以为学书法就是要写得跟字帖一样漂亮。但是那幅作品不同，笔力的强劲、字体的魄力让人震惊，改变了一直以来我对书法的认识。以此为契机，我萌生了加入这位前辈所在的书法俱乐部的想法，于是我报考了川口高中。

表达的重要性

加入书法俱乐部之后，我觉得自己变化很大。在初中时，同学们之间有一种表达与别人不同的意见就会招人讨厌的气氛，所以一直克制自己的意见。刚加入高中书法俱乐部的时候，我也很少表达自己的意见。但是老师告诉我，“自己的意见不说出来是无法传达给别人的”。于是我试着鼓起勇气说出了自己的想法。那时，我发现大家都在认真地听我说呢！从那以后，我开始学会努力地表达自己的想法。

我们书法俱乐部开展的活动包括大家齐心协力、共同完成一幅作品的表演式书法。写表演式书法因为参与的人比较多，所以经常有彼此意见不一致的情况。正是这种时候，表达自己的意见才更为重要。比如，在“书法少女甲子园”准备练习的时候，是应该把练习重点放在表演上，还是应该放在书法上，两个队员的意见发生了冲突。眼看两个人互相沉默，气氛越来越尴尬，我就对两个人说“不说出自己生气的理由是无法传达给对方的，不听听对方意见就不知道对方在想什么”。经过双方交流，解决了矛盾。从这样的经验中，我明白了只有把自己的意见正确地传达给对方，才能谋求互相理解的道理。



爱华在写自己喜欢的汉字

克服困难

我很珍视从平时的练习中感悟到的东西和老师对我说的话。为了把这些东西运用到下次的练习中，我每天都记笔记，现在已经写了7本笔记本了。

其中，3年级暑假时我记下的“坦诚地表现自我。感受本真！”这句话背后有着难忘的记忆。

那段时间，我在表演式书法上以及参加书法展览和比赛的作品创作上都遇到了麻烦。写不出自己满意的作品，学过的东西也发挥不出来。真羡慕那些进展顺利的队员，而我只是一味地白使劲儿、做无用功，不懂的地方也不能诚实地说不懂，非常痛苦。心中慌乱，消极，不能静心，

川口高中书法俱乐部

练习时间是周一至周五的早上5点~8点半，下午4点~8点左右。在大型书法展览前周末也要练习。主要是练习表演式书法的动作、姿态及制作参赛作品等。有时练习后大家一起开反省会或是交流练习经验，有时认真地跟老师学习运笔的方法。每天早上，老师会给队员们做汤喝，这也是一大乐趣。

活动

- ★ 每年大约向30个全日本规模的书法展览投稿
- ★ 每年年底举办校外展“川高书展”
- ★ 表演式书法（在日本电视台“超近距离”（ZOOM IN SUPER）主办的“书法少女甲子园”中三连冠）

乱发脾气。

老师看出了我的心思，对我说：“不要去钻为什么写不好这个牛角尖，而应该分析写不好的原因是什么”。于是，我开始试着转变想法，不是总想“写不出来，好难过啊”，而是想“为什么不能按自己的想法写出来呢”、“写不好的原因是什么呢”。于是，我注意到了要在握笔力量和运笔方法上下功夫，慢慢能写出自己想要的字了。现在想起来，真是自己给自己制造苦楚啊。从这样的经验中，我总结出不论遇到什么困难，都要坦诚地面对事实，同时改变思考的角度才能解决问题。虽然过程很痛苦，但是却得到了很大收获，失败是成功之母嘛。

为实现理想

妈妈说：“爱华要是没有加入书法俱乐部的话，说不定会患上通世症呢。”我自己也这么认为。因为不擅长与人交流，如果没有书法俱乐部的老师和朋友，没有表演式书法的话，我可能早就不去上学了。对我来说，书法是我今天生活的一部分，再说绝对一点儿，是我生命的全部。将来我想一直从事与书法有关的工作。

我的理想是成为一名制作毛笔的手艺人。为了成为手艺人，需要花钱学习。所以，我决定高中毕业后先到书法用品公司上班。在那里积累作为社会人士的经验，积攒实现理想所需要的金钱。至今为止，我用过各种各样的毛笔，由于毛笔的材料不同，书写时的手感也不同，这引起了我对毛笔的兴趣。随着对毛笔的深入调查，我越来越觉得有趣，梦想有朝一日自己也能制作毛笔。

我在书法俱乐部的三年中，不单单磨练了书法的技艺，还掌握了礼节规矩，在精神上变得坚强。我觉得这些东西在我毕业后进入社会也是很有用的。今后，我也会从失败中总结教训，不断朝前迈进。

书法的魅力

用毛笔写的文字，由于墨的用量，笔力等不同，即使同一个字看起来也有很大差别。而且，从毛笔字上可以看出一个人的癖好、性格等，能将作者的为人传达给观者。这可谓是书法的魅力吧。

特别是表演式书法，不光是写字的人，看的人也能享受到书法的乐趣。我是在进入书法俱乐部之后，开始学习表演式书法的。起初，我惊讶地想：在那么大的纸上怎么写字呢？第一次拿起大毛笔的时候也很紧张。不过现在，和着音乐的节拍，一边舞一边写对我来说是一种享受。我发现当我们快乐地表演时，看表演的人也会被我们感染，变得快乐起来。写的人和看的人能够心心相映，没有比这更令人高兴的事了。

（此稿根据2010年2月的采访内容进行了整理，登场人物的年级为采访当时的年级。）

书法俱乐部顾问三宅老师给爱华的寄语

在这三年间，爱华通过表演式书法学会了与大家互相支持、相互协作。真切体会到了有很多人在支持着自己，同时自己也在支持着别人的这种感觉吧。在这一过程之中，爱华也成长为一个能为别人着想、关心同伴的人。同时，也养成了敢于面对自我、遇到挫折不气馁的重要品质。

我希望爱华长大后能够成为体谅他人、坦率地表达自己的感情、一直钟爱书法和他人的人。



表演式书法创作现场。和着音乐，有节奏地运笔。